

【全体概要】

愛知県のじねんじょ産地では、ポリマルチ栽培を前提とした、養分吸収量にあった安価な全量基肥肥料の開発が求められており、愛知県農業総合試験場が時期別の養分吸収特性を解明し、これに合致した肥効を示す全量基肥肥料を共同開発した。この技術を標高の異なる複数のじねんじょ産地で実証し、養分吸収特性に基づく低コストかつ省力的施肥体系の確立を目指す。

新品種・新技術等の概要

「じねんじょの養分吸収に基づく低コストかつ省力的施肥技術」

開発者：愛知県農業総合試験場

開発年：2019年

特 徴

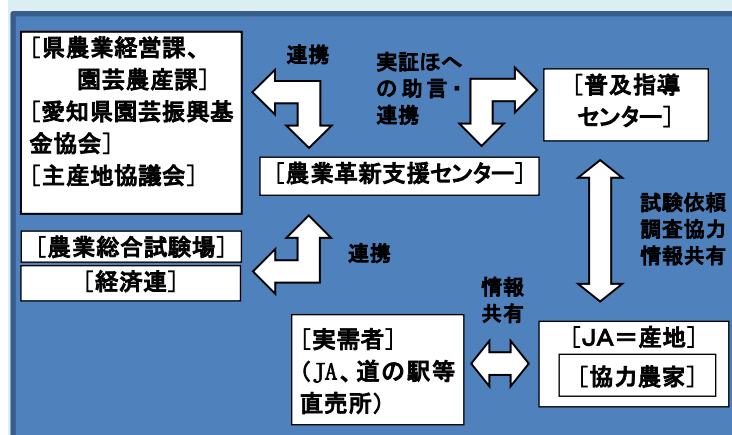
- ①ポリマルチ被覆栽培が前提。
- ②じねんじょの養分吸収特性を明らかにし、それに合致した肥効を示す全量基肥肥料を経済連と共同開発し、活用。



主な取組内容

- 標高の異なる8か所で開発された全量基肥肥料の実証ほを設置し、慣行施肥と比較してその有効性を検証した。
- 実証結果のとりまとめと成績検討会の実施
- 関係機関との意見交換会
- 産地・実需者との情報交換会
- 省力的施肥技術に関する意見交換会

実施体制図



- ・農業革新支援専門員は、普及指導センター、試験場と連携し、実証試験への助言や支援を実施。
- ・協力農家は、実証ほの栽培管理、評価を行う。
- ・普及指導センターは産地と連携、協力し実証ほの調査を行う。

課題と今後の対応

【取組の結果】

- 全量基肥肥料実証ほでは、現地の慣行施肥より少ない施肥量で同等の収量・品質を確保できたが、標高の低い地域の一部では、やや収量が少なかった。

【今後の対応】

- 令和2年度の実証結果を踏まえて、令和3年度の実証試験を行い、各産地に適応した新たな省力的施肥体系モデルを策定。
- 低コストかつ省力的施肥技術導入を加速化するための指針を作成。